

三島 反対派が市民集会 再開発で2氏が持論

再開発で2氏が持論

三島駅南口東街区の再開発に反対する「三島駅南口の整備を考え市民の会」(渡辺豊博代表)は12日、市民集会を市内で開き、約250人が参加した。県議の宮沢正美氏(69)と会社経営の石井真人氏(39)が事業に否定的な立場から持論を述べた。

明して理解を求めた。豊岡、宮沢、石井の3氏は12月の市長選に立候補する意向を表明して、再開発の是非は争点の一つになるとみられている。

再開発は当該地1・3畝にマンション・ホテル棟や商業棟などを建設する計画で総事業費220億円。市と地権者は近く、ミサワホームを中心とする共同企業体と事業協定を結ぶ見通し。

宮沢、石井両氏は再開発自体は必要とした上で、現行案について「財政負担が大きい」「市民の合意形成が十分」などと指摘。事業はいったん立ち止まり、駅の南北自由通路の設置や伊豆半島の玄関口としての機能、市庁舎の建て替えなどを総合的に踏まえて練り直すべきと主張した。

東郷和彦県対外関係補佐官も出席し、両氏に賛同した。

登壇者の1人に招かれた豊岡武士市長(75)は欠席し、書面で事業の経緯を説



再開発事業に反対する団体が開いた集会。三島市内

業の経緯を説